

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-オ	県民参画と環境教育の推進		
施策	①環境保全に向けた県民参画の推進と環境教育の充実			
(施策の小項目)	—			
主な取組	環境教育推進校の指定	実施計画 記載頁	24	
対応する 主な課題	○県民一人ひとりが環境保全の重要性など環境問題に対する意識の向上を図っていくためには、幼い頃からその重要性を学ぶことができる環境整備が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	「沖縄県教育委員会研究指定校実施要綱」に基づき、環境教育推進校を指定し、生徒一人一人の環境保全への意識や態度の育成を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1校 指定校数				→	→	県
	環境教育推進校の研究指定						
担当部課	教育庁県立学校教育課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
教育課程の改善充実事業	705	705	平成27年度は辺土名高等学校が「自然環境を大切にする考え方と態度の育成(やんばるの豊かな自然環境での体験活動を通して)」をテーマに指定研究を実施した。環境教育指定校の指導者を育成のため、環境教育リーダー研修基礎講座へ派遣を行った。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
指定校数			1校 (27年)	1校 (27年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	辺土名高等学校が平成27年度から2年間研究指定を受けることになり、「自然環境を大切にする考え方と態度の育成～やんばるの豊かな自然環境での体験活動を通して～」のテーマで研究をおこない、恵まれたやんばるの自然へ生徒の意識が高まった。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
教育課程の改善充実事業	705	平成27、28年度研究指定校に決定している辺土名高等学校が「自然環境を大切に考える考え方と態度の育成(やんばるの豊かな自然環境での体験活動を通して)」をテーマに研究をおこなう。昨年に引き続き先進校視察や探求学習、成果発表などをおこなう場合の指導助言など支援をおこなう。平成29年度指定に向け募集をおこなう。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度取組改善案	反映状況
<p>①先に久米島高等学校での先行研究があるので、それをたたき台に研究の計画を立ててもらおう。その際、一部の生徒の活動にとどまらないように生徒・職員が一体となって取り組むような計画が望ましい。</p> <p>②環境関連の取組を学ぶために職員も県内外の研修に積極的に参加できるよう支援を行う。</p> <p>③遠隔地であるため可能な限り学校訪問を行い情報交換に努める。また、学校における進捗状況については、学校訪問以外にメール等を介してその状況確認を行う予定である。</p> <p>④研究成果については他の県立学校へ周知し、環境教育の普及と意識の高揚を図る。研究成果の冊子を他校に配布するのは年度末になるため、学校で得られた研究成果等は各種理科研究会等も積極的に活用していく予定である。</p>	<p>①生物クラブだけでなく、生徒会活動や総合学習での地域の環境に対する取組がなされた。</p> <p>②県外の先進校への視察がおこなわれた。また、県外でおこなわれた環境教育リーダー研修へ担当者を派遣した。</p> <p>③遠隔地のため学校訪問はあまりおこなえなかったが、担当者とメール等の情報交換や資料提供をおこなった。</p> <p>④近隣学校へ案内を送り、2月に中間発表をおこなった。成果報告集を3月に作成し、次年度配布予定である。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	平成27年度から2年間指定校となる辺土名高校において、自然環境を大切に考える考え方と態度の育成に研究に取り組み、理科の授業や特別活動等を通して、環境問題に対する意識向上が図られている。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因 平成27年度指定校の辺土名高校が、やんばるの豊かな自然を題材に、自然環境を大切に考える考え方と態度の育成に取り組んでいるが、学校が遠隔地のため、学校に訪問しての情報交換があまり行えない。</p> <p>○外部環境の変化 特になし</p>

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・優れた研究を行っている生物クラブの活動も活かしながら、身近な環境についても研究の視点に盛り込む。
- ・辺土名高等学校には環境科が設置されており、環境分野の学習に日頃から取り組んでいることから、よりよい効果が期待できる。理科だけでなく他教科での実践等も検討する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・研究成果を各学校へ普及させるため、学校でおこなわれる成果発表会への参加呼びかけ案内をおこなう。また、研究成果については他の県立学校へ周知し、環境教育の普及と意識の高揚を図る。研究成果の冊子を他校に配布するのは年度末になるため、学校で得られた研究成果等は各種理科研究会等も積極的に活用していく予定である。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-オ	県民参画と環境教育の推進		
施策	①環境保全に向けた県民参画の推進と環境教育の充実			
(施策の小項目)	—			
主な取組	環境学習指導者講座	実施計画 記載頁	24	
対応する 主な課題	○県民一人ひとりが環境保全の重要性など環境問題に対する意識の向上を図っていくためには、幼い頃からその重要性を学ぶことができる環境整備が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	<p>環境教育の目的は「環境や環境問題に関心・知識をもち、人間活動と環境とのかかわりについての総合的な理解と認識の上にとって、環境の保全に配慮した望ましい働き掛けのできる技能や思考力、判断力を身に付け、持続可能な社会の構築を目指してよりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成すること」とである。</p> <p>県立総合教育センターでの短期研修講座として、小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、環境学習の概論的な把握や授業で使える簡易な環境調査等を通して、環境学習に必要なスキルを養い、競技等を通して、課題解決の手法を模索し、指導スキルの向上を図る。</p>						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1講座 研修講座数				→	→	県
	県立総合教育センター短期研修講座の実施						
担当部課	教育庁県立学校教育課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
県立学校指導事業費	265	265	県立総合教育センター短期研修講座の一つとして、小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、環境学習に関する講義、講演、実践事例発表等を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
環境学習に関する研修講座数			1講座 (27年)	1講座 (27年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	小・中・高・特別支援学校の教員14名(小学校5名、中学校3名、高校4名、特別支援2名)を対象に、環境教育についての研修講座を行った結果、環境教育に関する関心と理解を深め、学校に於ける実践的な指導力の向上が図られた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
県立学校指導事業費	253	県立総合教育センター短期研修の講座の一つとして、小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、環境学習に関する講義、講演、実践事例発表等を8月に計画している。		県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①参加者を増やすために、学校向けの案内の他に各理科研究会等の学習会等で案内をおこなう。</p> <p>②ESD(持続可能な開発のための教育)の視野に立ち、たとえば環境問題の現状について、生物や化学分野以外の理科分野から視点を講義に取り入れ、環境学習についての実践的指導力の向上を図る内容を目指す。</p> <p>③事例報告会については、参加者が多くなる日を検討し設定する。各学校等に案内を出し周知に努める。</p>	<p>①総合教育センターにておこなわれる講座を理科研究会の学習会にて案内したが、参加者が集まらなかった。</p> <p>②環境教育リーダー研修基礎講座にセンター主事(地学担当)を派遣し、環境教育・ESDカリキュラムデザイン研修を受講した。生物や化学以外の分野からの視点を検討した。</p> <p>③事例報告を研修会で実施し、各校の事例を報告してもらい共有を図った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	<p>環境保全の重要性など環境問題に対する意識の向上を図っていくためには、幼い頃からその重要性を学ぶことができる環境整備が必要であるため、小・中・高校・特別支援学校の職員を対象に講座を実施することで、学校における環境教育の推進を図っている。</p>
------	--

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集定員40名に対し14名(小学校5名、中学校3名、高校4名、特別支援2名)の参加であった。生物多様性おきなわ戦略(平成25年3月)および沖縄県環境教育等推進行動計画(平成26年6月)を推進するためにも、参加を拡大する取組みが求められる。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立教育政策研究所の環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】(平成26年10月)やESDユネスコ世界会議(平成26年11月)等、国内外でESDの取組みが行われており、その重要性が増している。
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・ESDをより重視した観点から研修の充実を図る必要がある。そのためにも、複数の教科・分野からなる取組みを、実施可能な所から強める必要がある。 ・講座内容に地域での取組等を事例として挙げ、受講者が学校での取組の参考になる内容が必要。
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・生物や化学以外の指導主事も環境教育・ESDカリキュラムデザイン研修を受講させ、複数の教科・分野からなる取組を取り入れる。 ・理科系研究会等への周知を行う。
